

平成 26 年 10 月 31 日  
東京ガス株式会社

2014 年第 2 四半期 決算説明会  
主な Q & A

Q 1 : 海外事業の利益について。原油価格の変動も含め、リスクをどのように考えているのか？

A 1 : 原油価格が低下すれば、ガス事業には好影響をもたらす一方、海外事業の太宗を占める上流事業の収益性を悪化させるのは事実である。しかし、ガス事業と海外事業を合わせた当社全体の観点で言えば、ガス事業に与える好影響の方が大きく、原油価格が下がることは歓迎されることである。

海外事業に関しては、シェールガスの権益も含めリスクが小さくない。あらゆるケースを想定し、想定外の事象が発生することも含め、リスク管理をしていく。現時点で、弊社の上流事業に関して、大きなリスクをはらんでいるものはない。

Q 2 : 電力事業について。今期上期実績は対前年増益であったのに対し、下期で利益が減少する理由は何か？

A 2 : 今年度上期については、一過性の要因により前年度より高い利益を計上したものである。下期はその要因が剥落するため、利益は減少する見込みである。

Q 3 : 足元の ROE の水準が、ビジョンで目標としている 8%程度を上回っている。今後、ROE は低下していくと考えているのか？又は、8%程度という目標を上方修正するつもりはあるのか？

A 3 : エネルギー業界を取り巻く環境が激変している現在、2020 年の ROE 目標を算定することは大変困難である。しかし、今回発表した 16 年度から 18 年度の主要施策を着実に実行することで、ROE を高めていきたいと考えている。

Q 4 : ガスシステム改革等、取り巻く環境が大きく変化しつつあるが、現在の総分配性向 6 割という株主還元方針を変更するつもりはあるか？

A 4 : 現在の市場環境、当社が置かれている事業環境等が継続する限りにおいて、総分配性向 6 割については継続していく。

以 上